

消防自動車のいろいろ

火事は、建物や物によって燃え方がちがいます。そのために、消防自動車などにもいろいろな種類があります。



●指揮車
火事の現場で指揮をするときに使います。

●消防ポンプ自動車(ポンプ車)

消火栓や防火水そうの水を使って火を消します。1分間に2トン(水2ℓ入りのペットボトル1,000本分)の水を出すことができます。



●高規格救急自動車(救急車)

けが人や病人を手当てしながら病院へ運びます。



●消防ポンプ自動車(ポンプ車)〈消防団〉



●特殊災害対応車
危険なガスや薬品がもれ出した事故に出動します。隊員の身を守る服を積んでいます。



●災害対応多目的車

山火事や大きな救急事故などのときに、必要な道具を積んで出動します。コンテナを水そうに積みかえることもできます。

●化学消防ポンプ自動車(化学車)

水では消えない油の火事にかつやくします。水と消火さいのタンクを持ち、消火泡をつくります。



●特別高度工作車

車の後ろの大型フローアで、天幕の種を建物の外に出したり、車に積んでいるウォーターカッターで、鉄筋コンクリートなどの硬いものを火花を出さずに切ったりすることができます。

※1:大型のファン(送排風機)。

※2:研磨剤を混ぜた高圧の水を出す装置。

●水難救助工作車

海や川などで起こった水難事故に出動します。水難救助のためのいろいろな道具を積んでいます。また火事の際には、ポンプ車としてかつやくします。



●消防ヘリコプター「きたぎゅう」

山火事の火を消したり、藍島や馬島などの病人やけが人を早く病院に運んだりします。



●消防艇「ひまわり」

船の火事や海沿いの陸の火事、藍島や馬島などでの救急や海に落ちた人の救助に出動します。

●救助工作車

人を救助するためには必要な道具をいろいろ積んでいます。



●水そう付消防ポンプ自動車(タンク車)

積んでいる水(1.5トン)や消火栓、防火水そうの水を使って火事を消すことができます。



●泡原液搬送車

大規模の化学車が油による大火事を消すときに、必要な泡消火薬液を積んで出動し、化学車に補給します。



●はしご付消防自動車(30m級)

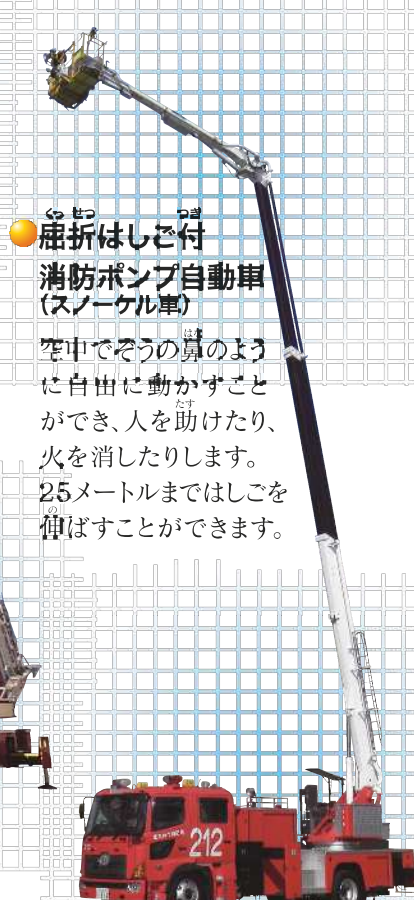
高いビルでの火事の際、人を助けたり、火を消したりするときにかかせない車です。10階(32メートル)まではしごを伸ばせます。(なかには40メートルまで伸ばせるものもあります。)

●高発泡照明車

たくさんの泡を出して消火したり、たくさんのライトで暗い場所を明るく照らしたりして活動しやすくすることができます。

●はしご付消防自動車(15m級)

15メートルまではしごを伸ばすことができます。



●屈折はしご付消防ポンプ自動車(スノーケル車)

空中でさうの鼻のように自由に動かすことができ、人を助けたり、火を消したりします。25メートルまではしごを伸ばすことができます。

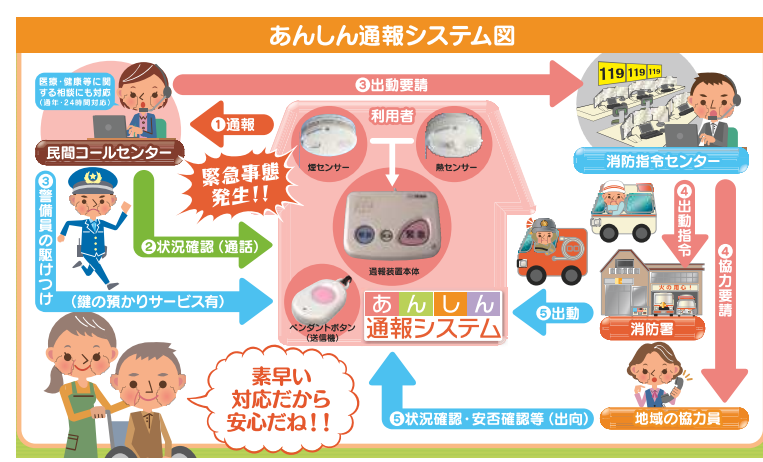
資料2 消防隊による救急活動「あかきゅう」

- ① 救急車の到着に時間がかかる場合(約10分以上)は、近くの消防車が出動して、救急車が来るまでの間、消防隊員が病気やけがをした人に応急手当を行います。
- ② また、119番通報を受けたときに、病気やけがの程度が重いと判断した場合は、消防隊員と救急隊員が協力して活動します。



資料3 あんしん通報システムの仕組み

高齢者や体の不自由な人たちが、体の具合が悪くなったとき、ペンダントや通報そちのボタンを押すと、すぐにコールセンターに連絡が入って、救急車が出動するシステムです。
火事が起きたときでも、センサーが異常を感じて、自動的にコールセンターに知らせが入り、消防車が出動します。



資料4 「スクール救命士」の取り組み

小学校、中学校及び高校と発達段階に応じた応急手当の講習を実施し、少年期から「命の大切さ」や「共に助け合う精神」を身につける取り組みを行っています。



資料5 「消防士さんといっしょ」の取り組み

火事の現場で活躍している消防士さんたちが、直接小学校に来て「消防のしごと」について子どもたちといっしょに学習します。

資料6 学習が生かされた事例の紹介

○ 「消防士さんといっしょ」を学んだ男の子(小学6年生)の話

男の子は、「おじいさんの家のボイラーが燃えている。」とお母さんから聞きました。その男の子は、すぐに住んでいたアパートから消火器を持って行き、おじいさんへ渡しました。さらに男の子は、近所のお店からも消火器を借りてきました。そのおかげで、消防隊が着いた時には、火の勢いは弱くなっていて、家が燃えることを防ぐことができました。



○ 「スクール救命士」を学んだ女の子(中学1年生)の話

外出中に、とつぜん、お父さんがたおれて心臓が止まってしまいました。女の子は、スクール救命士で学んだ心臓マッサージや人工こきゅうを救急車が着くまで行いました。そのおかげで、お父さんは回復して元気に退院することができました。

